〈研修内容〉
●子育てに関する相談の方法
●仲間作りの進め方、子育て交流の援助
●学習活動の企画・運営等の指導助言の仕方、手作り人形製作、広報紙作り
●「おひざにだっこ」の活動の進め方
●幼児期の絵本や読み聞かせの大切さ

(5) 具体的な活動内容
①「子育てフォーラム」幼児家庭教育学級
●学級生四六名、年二十回のプログラム
●体験的な演習、実技等でふれあい重視
●「子育てグループ活動」への発展をねらってネットワーカーが参加情報交換
②「アドベンチャークラブ」
●旧少年教室（小学三、四年、自然や文化とのふれあい）
③「親子ふれあい教室」
●町内四幼稚園、四保育園の親子年三回親子のふれあい活動、親の研修（人形劇、昔話等を通じて）
④「子育て交流の集い」
●幼児、児童と親のイベント、三部門に別けて同時開催、ふれあいパート一～三レク、体験コーナー、小動物を見よう
⑤「子育てグループ活動」
●既存のグループ＋新たなグループ作り

(6) 文庫活動や民話をとおしたふれあい推進
①ファミリー文庫（三グループ）
●活動…本の読み開かせ、紙芝居、人形劇、影絵（出前図書の開設から開始し、ママさん教室学級生とOBの協力）
●場所…半田、伊達崎地区公民館
●期間…年間六回、計十二回
②「おひざにだっこ」　月一回実施
●活動の主体…中央館や町民会館におけるネットワーカー
●内容…絵本作り、読み聞かせの小道具、大道具作り、絵本を媒体にした子育て相談や自由な話合い
③「民話の会」
●活動の実際…従来からあった三二名のグループが「親子ふれあい教室」から希望のあった幼稚園や保育園に出向いて活動した。十回の出演

おひざにだっこのお話し会（ネットワーカーによる）

●内容…プログラム例
一、十二支のお話　二、影絵による民話　三、手影絵　四、お手玉　五、綾取り
●その影響…語りを聞いた人が民話の本を進んで買い求めるようになった。また、小道具を揃えるにも多くの方々の関心と善意があり、「ふれあい地域づくり」そのものの活動であることを実感した。

三、おわりに

家庭と地域の教育力の向上のために、今後ますます、地域の親等のネットワークが必要となってきます。このためにも「子育て広場」を始めとする家庭教育のための事業の拡充が望まれるところです。

さらに、今年度から新規事業として「父親の家庭教育参加支援事業」が県の指定を受け国見町と白河市で実施されています。

最後に、桑折町の「子育て広場」に参加した一人の感想を紹介して終わりとします。

「もし、ここに参加しなかったら、ただの主婦、年寄りで終わったかもしれない。苦労もあったが、演ずることへの緊張感と喜び、幼い頃に覚えたわらべ歌やお手玉など、もう用がないと思っていたのに役に立ってよかった」

子育て広場での体験から、ふれあいの輪を広げ、学んだことを地域活動につなげ、生きがいを発見していく姿に、親自身の生涯学習そのものを見たように思う。